

# 小国中 NEWS

平成29年11月13日

発行 小国中学校内

ヤギ明々プレス社

Dixta.JP - 21615890

## 小国中生のボランティア精神

齋藤翔生くん、遠藤鉄也くん、前田大翔くん、佐藤大樹くん

感謝 感謝 感謝 感謝



11月11日(土)、小国町は発達した低気圧の影響を受け、台風を思わせるような強風がふきあれる荒れた天気となった。町内では、屋内プールゆ〜ゆの屋根がめくれあがりプールが使用不能になるなど、各地で強風による被害が報告された。小国中では街路樹の枯葉が吹き飛ばされ、学校前の通用路に散乱した。例年でも、街路樹の落葉が進み、落ち葉の片付けが課題となっている状況がある。しかしこの日の散乱状況は特にひどい状態であった。

部活動のために登校した野球部、齋藤翔生君、遠藤鉄也君、前田大翔君、佐藤大輝君は部活動終了後、自主的に落ち葉の片付けに取り組んだ。強風の中、もくもくと作業に励む4人の姿を目にした、本紙半田俊一記者は「さすがボランティアの小国中生だ。」と強く感じたとのことだった。4人のボランティア精神に拍手を贈りたい。

# 小国中 NEWS

平成29年11月20日

発行 小国中学校内

ヤギ明々プレス社

pixta.jp - 21616290

## 平成29年度学校研究発表会

1年2組(道徳), 2年2組(理科), 3年2組(英語)の授業を公開



公開授業3年2組英語



公開授業1年2組道徳



公開授業2年2組理科



研究成果を発表する山田昭宏教諭

11月15日(水)、小国中学校を会場に平成29年度小国町学校教育研究所学校研究発表会が開催された。迎田浩昭置賜教育事務所長、遠藤啓司小国町教育委員会教育長はじめ町教育委員、柿崎悦子小国高校校長を来賓に迎え、今年度の学校研究テーマに基づいて積み上げてきた研究成果を発表したほか3つの授業公開を行った。小国町の教育に、4年間にわたってアドバイザーとして関わってきた志水廣氏(愛知教育大学名誉教授)は、公開授業後の講評で、小国中生の授業に向かう前向きな態度と小国中職員の授業づくりに対する誠実な努力に対して大きな賞賛をおくるとともに、さらなる授業改善への期待を述べた。

人工知能の加速度的な進化、情報通信網の発達、社会のグローバル化の進展など、社会は急激にそして多様に変化している。この変化に対して、しなやかにたくましく、そしてしたたかに生き抜く力が求められている。小国中生が授業や家庭学習を両輪とした学びの中で、生き抜く力の源となる学力をしっかり身につけ、社会をリードする人材となり、小国の未来を切り拓いてくれることを期待したい。

## 赤い羽根学習会

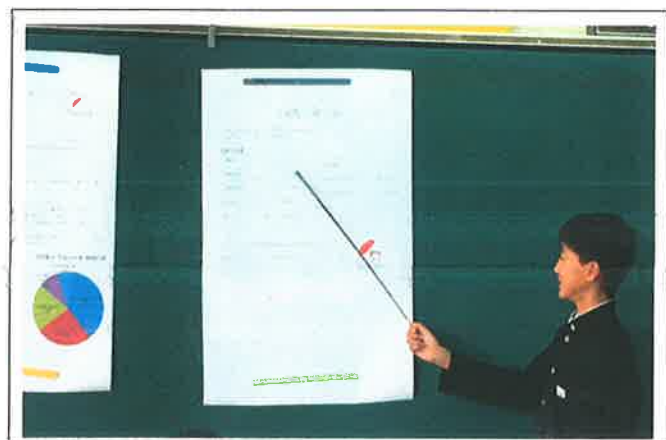
意義や意味を学ぶことを大切にする



佐藤里香さん（小国町社会福祉協議会）から赤い羽根募金について学ぶ



赤い羽根学習会



赤い羽根学習会



赤い羽根学習会

11月21日（水）、小国中学校生徒会では、赤い羽根共同募金の趣旨に賛同し、募金活動が始めるにあたって、朝活動の時間を利用しての赤い羽根学習会を開催した。

この学習会に先立って、生徒会役員の諸君は、佐藤里香さん（小国町社会福祉協議会）を講師にお招きして、赤い羽根共同募金について、そのねらい、集められたお金の使われ方などについて、理解を深めた。この度の学習会は、その伝達講習の意味合いがある。

ちまたでは、街頭での募金の呼びかけ、ネット募金、電話をかけるとその料金の一部が募金になる等様々な手段での募金が呼びかけられている。小銭を気軽に募金することもよくある。しかし、その募金のねらいや集められたお金の使われ方などについて深く考えたことがどれだけあるだろうか・・・。

自分の、自分たちの活動に、どのような意義や意味があるのかを知ることは大切なことである。生徒会のこの度の取り組みは、大きな意味を持っている。

## 町長さんから税の作文表彰

長井税務署長さんらも同席



11月22日(水)、仁科洋一小国町長が小国中を訪れ、「税の作文コンクール」小国町長賞を受賞した岩田平君に、賞状を授与した。同校校長室で行われた授与式には、根本修長井税務署長、小野寺健二長井税務署総務課長、八木幸夫校長らが同席した。仁科町長から賞状を手渡された岩田君は、「ありがとうございます。」と爽やかにあいさつし、祝福を受けた。

仁科町長は「町政は町民の貴重な税金で運営されている。中学生のうちから税金に関心を持ってくれるのは嬉しいことだ。」と感想を述べた。根本長井税務署長は、「11月15日に長井で授賞式を行ったが、学校の都合で出席していただけなかったのが残念だった。今日、町長様から伝達していただけて良かった。」と話していた。

10月、11月、小国中では作文や絵画など文化面でのコンクール入選が相次いでいる。日ごろの活動の成果が対外的に評価を受けていることは喜ばしいことだ。